

単元番号	短歌に親しむ/短歌を味わう			
時数	単元を学ぶ目的			
5	中学国語で短歌を学ぶ目的は、言葉の力を理解し、自分の感情や考えを表現する力を高めることです。短歌を通して、言葉の選び方や表現の工夫を学び、より豊かな表現力を身につけることができます。また、短歌は日本の伝統文化である和歌に触れる良い機会でもあります。			
教科書 62 ↓ 68	単元目標			
ワーク 44 ↓ 51	○観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。 ○短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。			
日付	No.	参考リンク	目標達成に向けた課題	やることリスト(できたものは✓をつける!)
/	1		①全文を通読する ②語句や漢字を調べる	<input type="checkbox"/> ペア(またはトリオ)で音読(段落読み)をして、サインをもらった。 <input type="checkbox"/> 漢字や語句を調べて、ワークシートを終わらせ、丸をつけた。
/	2		①『短歌に親しむ』の中から好きな歌を2つ選び、パワポにまとめよう。 ②『短歌を味わう』の中から好きな歌を2つ選び、パワポにまとめよう。	<input type="checkbox"/> 4~5枚のスライドでまとめることができた <input type="checkbox"/> ポイントを外さずにまとめることができた(表現技法・鑑賞・作者・句切れ) <input type="checkbox"/> 見た人の印象に残るような、作者のエピソードをパワポで作ることができた
/	3		①『短歌に親しむ』の中から好きな歌を2つ選び、パワポにまとめよう。 ②『短歌を味わう』の中から好きな歌を2つ選び、パワポにまとめよう。	<input type="checkbox"/> 全部で計4首の歌のパワポを、ペア(またはトリオ)で完成させて、スクールワークで提出した。
/	4		※注目	
/	5		①『短歌に親しむ』・『短歌を味わう』の復習をしよう	<input type="checkbox"/> 『短歌に親しむ』・『短歌を味わう』のワークシートを終わらせて、丸付けをした。 <input type="checkbox"/> 『短歌に親しむ』・『短歌を味わう』のワークノートを終わらせて、丸付けをした。
 短歌の解釈とは、作品の内容を読み解き、作者の心情や意図、作品の背景などを理解するプロセスです。単に言葉を理解するだけでなく、 隠された意味や表現の意図、歴史的背景 などを考慮して、より深く作品を理解することが重要です。 webサイトやYouTubeなどいろいろな情報を比較して、精査して、より深い学びにつなげることが大切です!				

I 短歌に親しむ・短歌を味わう

【目標】短歌を音読し、短歌の特徴について確認しよう。

名前

二年組番

- 音読を一緒にした人(ペア or トリオ)のサインをもらおう!

一緒に読んだ人のサイン	

- 一 次の語句の意味を辞書で調べよう。複数の意味がある場合は、「短歌に親しむ」での用法に近いものに○印を付けよう。

託す	みずみずしい	臨場感	贅歌	我が物顔	悠然	壯大

- 二 次の語句を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。

- ①くれなる () ②やはらかに ()
 ③かはづ () ④ただよふ ()

- 三 次の一線部の漢字の読み方を調べ、()に書こう。

- ①バトンを託す。 () ②映画を鑑賞する。 ()
 ③丁寧に描写する。 () ④優しい言葉をかける。 ()
 ⑤牧場を歩く。※訓読みで () ⑥爽やかな風が吹く。 ()
 ⑦恐竜の化石を発見する。 () ⑧水仙の香りがただよう。 ()
 ⑨我が物顔に振る舞う。 () ⑩優れた業績を残す。 ()
 ⑪窓に水滴が付く。 ()

短歌に親しむ・短歌を味わう

【目標】短歌に用いられた、表現の効果を考えよう。

名前

二年組番

【短歌に親しむ】：：調べる歌を全文書き写そう①

○作者

○句切れ

○表現技法

○鑑賞（内容のポイント、歌を理解するために必要な情報や作者に関するエピソード）

【短歌に親しむ】・・調べる歌を全文書き写そう②

○作者

○句切れ

○表現技法

○鑑賞（内容のポイント、歌を理解するために必要な情報や作者に関するエピソード）

【短歌を味わう】・・調べる歌を全文書き写そう①

○作者

○句切れ

○表現技法

○鑑賞（内容のポイント、歌を理解するために必要な情報や作者に関するエピソード）

【短歌を味わう】・・調べる歌を全文書き写そう②

○作者

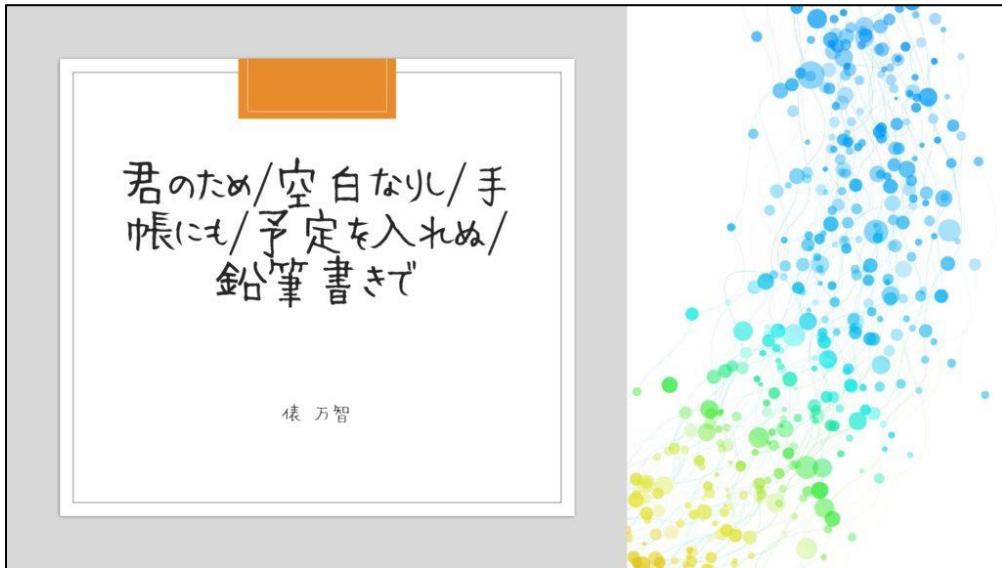
○句切れ

○表現技法

○鑑賞（内容のポイント、歌を理解するために必要な情報や作者に関するエピソード）

【見本 I】

①



③



②

俵万智 プロフィール

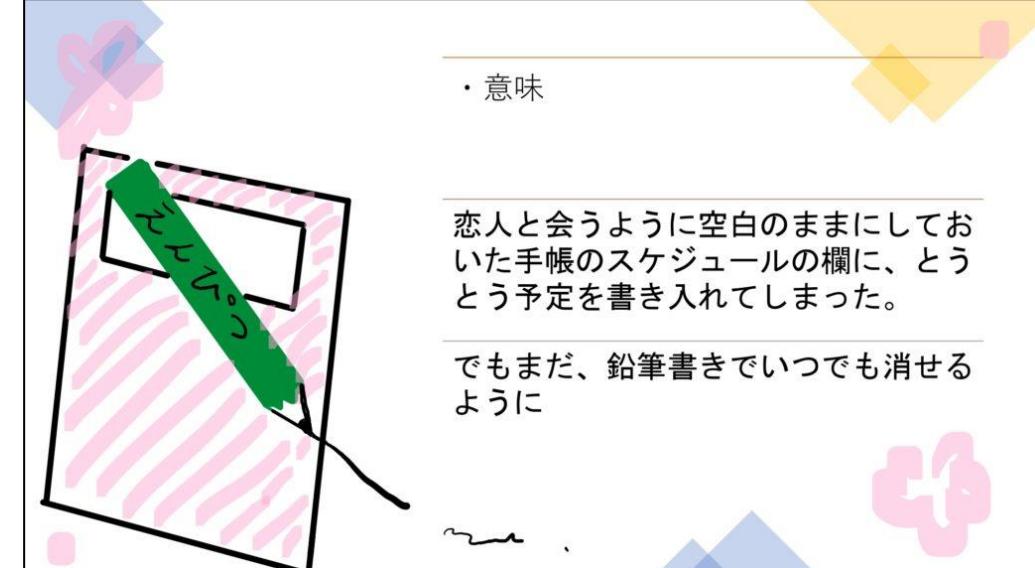
日本の人、エッセイスト
短歌や詩だけではなく、小説なども書いている!!

1986年に角川短歌賞・1988年に歌人協会賞を受賞している
いくつかの歌集を出版→1987年に第一歌集の「サラダ記念」

作風は「現代語・口語調」が中心で親しみやすく分かりやすい

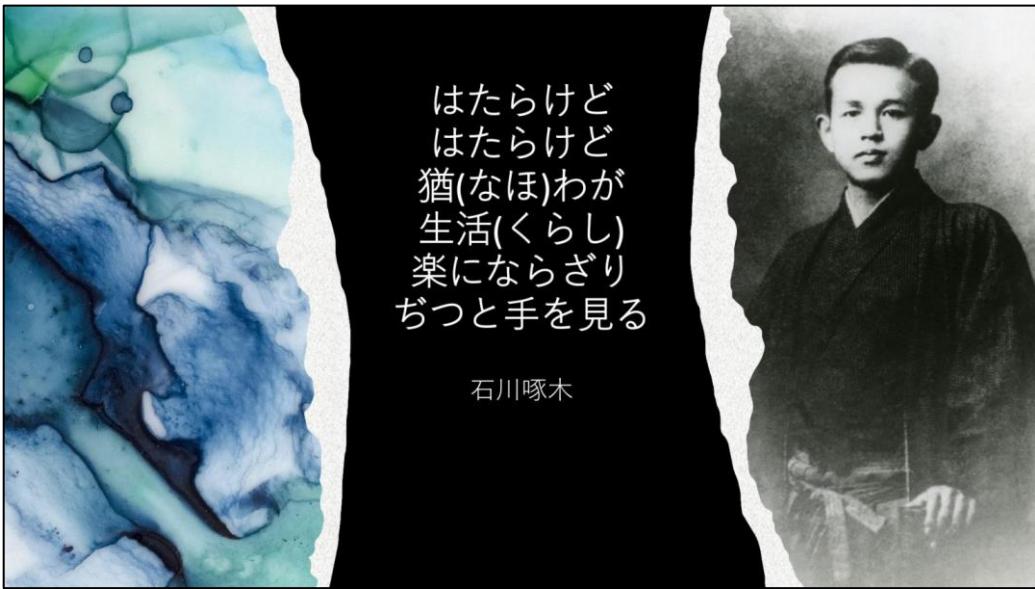
日常のワンシーンをそのまま短歌にしている

④



(見本Ⅱ)

①



③

鑑賞のポイント

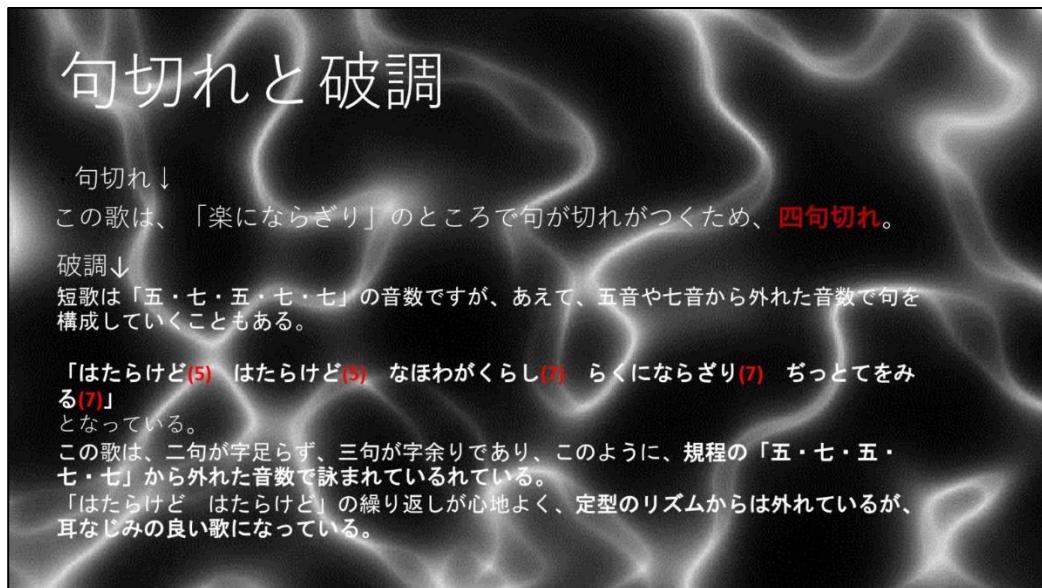
働いても働いても
私の暮らしは一向に楽にならない じっと手を見る

労働階級の悲哀を見事に表現しており、労働環境などの問題を提起するときに現代でもよく引用される

はたらけどはたらけど 最短の反復から汗水たらし努力して働くも中々報われることがないという深い絶望が読み取れる

ぢつと手を見る 動作の描写と身体的表現が差し出され読み手と啄木の視線が重なる

②



④

この短歌がかかった時代背景

この短歌からは
努力しても報われない、明るい未来が描けない深い絶望が伝わってくる。

この詩が詠まる直前には、社会主義者幸徳秋水らが天皇暗殺を企て、一斉検挙されるという大逆事件が起こっている。石川啄木はこれに興味を持った。自らが落伍者であるという自覚や自らの貧困や病といった生活の苦勞から「社会の体制への怒りがあった」「社会主義に傾倒していた」とも言われている。

→石川啄木のそのような思想が「はたらけど・・・」の裏にあると言われている



幸徳秋水



石川啄木